

根本 敬・久(1964):ひげ鯨類の群、鯨研通信 154

大村 秀雄(1950):日本近海の鯨類、鯨研英文報告 4

## あとがき

座談会での話題は「イワシクジラの群れについて」であったが、題目を標記のように変更した。また、「群れ」と「集団」の術語を、一般性を考慮して、本文中の定義の如く変えた。

### 〔質疑応答〕

- (宇田) イワシの群は未成熟鯨と成熟鯨の比が東西方向で何か傾向があるようにみえる。成熟比の等量線をひくと43°N辺りに密集していて亜熱帯収束線と関連がありそうにみえる。群れが観察された時の海況は1958・9年のカナダ寄りの海況と極めてよく似ている。北米側で暖く、千島側に冷い海況といえる。
- また、月を追って群が大きくなるがこれらの点はどのように考えればよいのか?
- (町田) 温暖域から漁場に到着する鯨群は成長段階や生理的の状態によって早遅がある。このメカニズムが現われたものとする。
- (高沢) 海上気象でみるかぎり、今年は大きな変動がなかった。ただ近年の傾向としては、ハワイ方面からの中緯度低気圧の北上が非常に稀となって好天が多い。
- (正木) 資料の群れというものの信憑性はどうか。制限体長や選鯨など捕獲上人為的の要素が多く入りすぎているのではないか。
- (町田) そのとおりである。今後注意する。

## 5. 北鯨のヒゲクジラの餌料

### サクラエビの近似種について

河村 章人(鯨類研究所)

北太平洋の捕鯨操業は1952年にはじまり1970年ですでに19次を数える。その間 *S. similis* がヒゲクジラの餌料となっていたのは1959年度漁期に1例のみシロナガスクジラの餌料となっていた報告があるだけである。ところが、1969、1970年の2漁期には多数のナガスクジラとイワシクジラが *S. similis* を索餌していることがわかった。そして、さらに追跡調査をしたところ1967年以降年々 *S. similis* を索餌している鯨が増加してきており、これまでに少なくとも192頭がこのエビを主要餌料としているのが判明した。

ヒゲクジラ類の餌料としての *S. similis* は5~8月にわたって発見されるが、索餌の盛期は5~6月にあって、この季節にもっとも表層に濃密集団の形成される傾向のつよいことが考えられる。餌料としての本種の分布域は2ヶ所に大別される。すなわち、41°~49°N、156°~174°Wに囲まれるアリューシャン南方域と、45°~49°N、136°~143°Wのアラスカ湾域である。ヒゲクジラ類の餌料として一したがって濃密集団をなして、*S. similis* が出現するのは50°N以南の西経海域に限られるということがいえる。*S. similis* は日本沿岸から北太平洋をめぐりカリフォルニア沖まで分布することが知られているが、高密度に分布する海

域は極前線に沿うようなかたちで北部北太平洋域にあり、鯨類による本種の索餌状況とよく一致している。本種が出現する海域の表層(約10m深)水温の上下限6.0℃および14.2℃であるが、平均的には8℃~13℃で多く出現する。同じ海域内で*S. similis*が餌料となつて出現するときの水温は比較的高温寄りにあり全海域を通した平均水温よりも常に0.5~1.2℃高い。*S. similis*は沖合冷水性ではあるが、その中で比較的温暖域に分布するといえる。

*S. similis*は5時から21時までの間の何時に捕獲された鯨体にも索餌されているが、活発な索餌活動の中心は6~9時にあり、この間に本種を索餌した鯨数、その全体に対するパーセントおよび第1胃充満度等は3者共通して高い値を示す。この点では北太平洋の主要なヒゲクジラの餌料生物——*Thysanoessa*属オキアミ類、では夕刻日没時に再度の高い索餌率が示される傾向がみられることと対照的である。

*S. similis*については未だ資料が少くその繁殖や分布の生態には不明な点が少ない。パッチ形成の機構についても駿河湾産サクラエビの場合との比較において興味深いものがある。ナガスクジラを例にとつてヒゲクジラの索餌の対象となる程度のパッチを形成する*S. similis*の個体密度を試算すれば、合理的にみて略々1000~2000個体/m<sup>3</sup>と推定される。これは駿河湾産サクラエビ(59~588個体/m<sup>3</sup>)、あるいは南極洋産のオキアミ、*E. superba*(6100個体/m<sup>3</sup>)、*E. krohnii*(31000個体/m<sup>3</sup>)などと比較すれば不当に高い分布密度ではないことが理解される。

\* 講演内容は以下に発表済みおよび予定であるため要旨のみを載せた。

河村章人(1969):北鯨にみられためざらしいヒゲ鯨の餌料——*Sergestes similis* Hansen:サクラエビ近似種について(予報)

Omori, M., Kawamura, A. and Aizawa, Y.: *Sergestes similis* Hansen, its distribution and importance as food of fin and sei whales in the North Pacific Ocean. *Biological Oceanography of the Northern North Pacific Ocean*, Hokkaido Univ.

#### 〔質疑応答〕

(宇田) *S. similis*の食品価値、生活史、行動などはサクラエビ*S. lucens*と比べてどうか? また、鯨に索餌される深度はどうか?

(河村) きわめて類似しているものとおもう。

*S. similis*を鯨が索餌する深度は100m以浅、おそらく大多数はごく表層であろう。

(宇田) 餌料としての分布域は極前線帯の波状域に相当しているようだ。体長その他生物学的特性に季節変化はみられるか?

(河村) 平均体長(頭胸甲長)は5月から8月にかけてかなり急激に増大する。性比は少々メスが多いがほぼ1:1とみてよい。頭胸甲長12mm以上ではメスが多くなるが、これは